

●とびつくす●

出羽島まぢづくりハウス体験泊

シニア部会 矢部 洋二郎

出羽島はトンビの「～ピーひょろろ～」がよく透きとおる静かな、静かな島であった。あの声は「いらっしゃい」なのか? 「怪しい奴が来たぞ、気をつけろ～」なのか? 回数からすると、後のような気がしたが……。

出羽島まぢづくりハウスを活用しようとの呼びかけに応じて、シニア部会の一泊釣り旅を計画してみたけど、予定が合わず、また「～水温がまだ高い～」というマニアックな声があり、延期。そこで、前期高齢者夫婦の一泊旅行へ変更した。

11月初旬の週末、快晴に恵まれ、午前11時10分出港、翌日午前12時20分に離島する、ほぼ1日の行程であった。

同伴者は散策と風景絵描き、こちらは豆アジ釣り、ボウーとしたチヌでもおらんかな～と気楽な気分。釣果はこのとおり。



定規は30cm、最大のチヌは37cm、これは釣り場の先客がプレゼントしてくれたもの。釣れたのはアイゴ25cm×2匹、など。アイゴを釣るたびに刺され、手指が血まみれで激痛1時間!!



さて、牟岐港をあとに海上、約15分。後部デッキは風通し、見晴らしが良く快適。大人220円。

自生している亜熱帯植物ハイビスカスが、港の傍の庭先で真赤な花を咲かせていたのも驚きだった。

着いて初めにすることはブチョウを開けてミセをおろすこと。アガリタテから開けたガラス戸越しに港を見て、お茶をする。夕食、朝食も同じように。のどかで、しっかりシニア部会だった。

泊まり心地について。寝袋持ち込みで、1階の3畳に1人ずつ。チャノマ、アガリタテで食事。2人だったので十分な広さだった。キッチンとの行き来にスリッパ(あるいはツッカケ)などがあると便利だろう。冷蔵庫・ガスコンロもある。

ホットプレートも持ち込んだので、焼き肉・焼きソバなどもできる。備品として置いてきた。

建築士会HPの平面図をみてほしいが、普段見かけない間取りで、何人まで泊できるか? が難しいところだ。仮に、181cmの私のようなのが3畳の間に二人寝ると、狭い気がする。なので、3畳に1人が3間+4.5畳に2人の計5人なら「ゆったり」。アガリタテで1人寝て、最大6人か?

体形が許せば、Max9~10人というところか?

布団は5人分あり、10人分まで揃える予定。

シャワーもある。消火器が1階2階に1器ずつぜひとも欲しい。

遊歩道中央コースで山頂の白灯台まで往復してみた。灯台の足元は草が伸び放題だった。これは、まぢづくりハウスに充電式草刈り機1台が備えてあれば、きれいになる。約1万円の設備投資を頼みます。



連絡船は大生(おおいけ)丸という。灯台の足元が釣り場、5~6人で一杯。イカも釣れていた。

伝建の家並みや周回遊歩道、展望台などは次回、あるいは他の会員さんの体験泊記に期待します。島そうめんの予約は2週間前までに町観光協会へ。使用料金は、夜間使用料3,000円+(1000円/大人)×2⇒2500円/大人。

(第一回体験泊記)

●地域会だより●

バツイチに給付金はアリ？

鳴門地域会 檜原 寛治

「震災は忘れた頃にやってくる」との言い伝えはよく耳にするが、人生六十五年にして阪神大震災、東日本大震災、熊本地震、そして今年元旦に起こった能登半島地震と忘れた訳でも無いのに次から次へと容赦無く起こる自然災害に、無力な私たち。被災され亡くなられた方々に心からの哀悼の意を捧げ、被災された方々の日常が、一日でも早く戻る事を祈ってやみません。更に救助活動や支援活動の方々にも頭が下がる思いで一杯です。

鳴門地域会の活動の中に災害時に避難施設などの被災建築物応急危険度判定の協力に関する協定書があり、令和5年末時点で鳴門地域会には13名の登録者が在籍しており、事が起これば迅速に対応しなければならないはずではあるが、手元には平成27年度当時の15名の連絡網が弊社の片隅に貼られたままである。そもそもこの懸案が発覚したのは、コロナ禍で実施した鳴門地域会の月1回の ZOOM 会議で、前事務局長の友枝さんからの提言で、「これでは全く機能しないから早急に現在の登録者を確認し、連絡網を再編しないと」との事が発端だった。昨年末の理事会で参加者の意向を得て、士会本部に問い合わせ確認し、連絡網の再編中にこの震災が起こった事に驚愕した。この ZOOM 会議も昨年コロナの5類への移行が決まった3月末をもって、休止する事になり役目を終えた感があったが、振り返れば参加者こそ、毎回5人から多いときで7～8人だったが、建築関係の話は勿論の事、趣味の話や長屋のお婆さんの井戸端会議とも言えるような話が楽しくでき、普段余り話し合うことの無かった会員の人柄や性格が身近に感じられ、大きな収穫だった。最大の成果は、なんと言っても鳴門支部互助会規約（定款）を見直し、改訂に手を付けたことに尽きる。その中身はというと、手始めに本会の事務所は鳴門土木事務所内（既に廃止）に置くとあったが会員が担う事とし、現在では山元尚武さんに引き継いでいただいている。支部の地域と構成については、鳴門に住まいするか、勤務先が鳴門市にある会員だったのを、県内に居住し、または勤務する会員をもって構成するとした。会員の構成と資格では、会員の減少に歯止めをかける意味から、準会員の門戸も広げる事にし、将来建築士になろうとする者を改め、建築に対し興味や関心がある者とした。その先駆けには準会員として入会されている県議会議員で議長を務めている岡田理絵先生の存在がとても大きい。規約の変更による会員の増加は厳しいが、建築士

会本部や各支部と連携し、PR 活動が必須事項かと思う。他の支部でも会員の減少は深刻であり、特に青年部に該当する若手会員の担い手不足は、青年部活動を各支部と連携する事、又は県内で一本化するしか道が無い現状である事は周知されつつあり、このように支部規定を時代の変化に少しでも適応するよう、改訂案の意見を出し合って形にしていって。堅苦しい話の中にも苦笑するような検討もされた。給付の額の項目に本人の結婚の場合に祝い金給付とあるが、高齢化している支部に該当者が有りそうも無いので削除したらとの意見が多数で、冗談交じりに再婚なら有るかも？等、議論は紛糾？したかに思えたが、総会に諮るとアッサリ、若い人の入会を期待して残そうと言う流れで決着し、全ての改訂案が満場一致で決まり、昨年6月より運用されている。

コロナとの共存を強いられる世になり、益々人材不足に拍車がかかり、支部恒例のイベントや研修旅行等も企画倒れになり、支部活動は衰退の一途を辿るしかないのか？毎年の活動計画は、同じ事の繰り返しで目新しい事も無く粛々と熟している現状に、会員歴四十四年の士会活動の隆盛期を享受してきた私と同じ年代の会員の方々も忸怩たる思いに違いない。

誰しもが経験あると思うが、新参加者が会やイベントに参加する時、初めて会う人とコミュニケーションをとるのは難しい。役員や常連会員の積極的な声掛けや、全員に名札を付け、まず名前と顔を覚えてもらうのが一番だ。昨年の鳴門支部総会では、全員に名札を付けて参加してもらい、見直す事が身近に多くあることに気づいた。小さな事の積み重ねが会員の増加と継続に結びつけばと、希望を持って次の世代への布石になればと願う。



●あなたが出番●

「一つの節目を迎える20代最後の年」

美馬地域会 平岡 賢一

年明けに石川県で令和6年能登半島地震が発生し、建物の被害や地盤の隆起等地震の被害をテレビで見て衝撃を受けた日から早1か月が過ぎようとしており、ここ最近時間が経つのがすごく早く感じてしまいます。

ついこの前まで20代半ばと思っていたら、今年でもう30歳になる年となり、20代はどんなことをしていたのか振り返ったり、30代はどんなことをしているのか想像してみたり等、一つの節目の年として意識してしまいます。ただ、あまりネガティブには考えずポジティブに考えて過ごそうと思います。

みなさんは、今年の抱負を考えていたりしていますか？自分は、まだしっかりとした事は考えていませんが、去年以上に公私ともにいろいろなことを体験してみたり挑戦していきたい年に出来ればと思っています。また、体力づくりについては特に力を入れていきたいです。力を入れる理由としては、健康面についてもですが、体験したいことの1つとして、季節ごとのつるぎ山に登山に行きたいことがあります。

以前秋頃につるぎ山に登ったとき、登山口の階段の段数が結構あったり急な上り坂が多く、運動を全くしていないこともあり、事前の調べで登山の難易度はあまり難しくないとのことでしたが、思っていたよりも大変でし

た。ただ、他の登山者の人たちを見ると息が上がっていないようで、自分が他の人より体力がないと痛感させられました。次につるぎ山に登山するまでには少しでも体力づくりをしていかないといけないと思いました。

ちなみに登山に興味を持ったきっかけは、コロナ禍で自宅と会社の往復がほとんどとなり休日も外出を控えていた頃に、仕事柄椅子に長時間座ることが多くあまり体を動かすことが無かったため、体を動かしたいと思っていました。そんな時に、たまたまネットで見たつるぎ山の山頂の写真が目につき、すごく綺麗と思い山頂まで登って見てみたいと思ったからです。

山頂まで登りきった時の達成感や満足感、景色や空気感等実際に登って自分で体感してみないと分からないということが大事であると改めて確認出来ました。また冬には樹氷や雲海が見れる等、一年を通じて多彩な景色を見ることが出来るみたいなので、季節ごとに登山に行きたいと思いました。

また、初心者でも登山出来そうな他の山にも挑戦してみたいです。

登山のことについて多く書いてしまいましたが、30代になるまでの残り数か月間の20代は、焦らず自分のペースで1日1日を大事にしていきたいと思っています。



↑つるぎ山山頂パノラマ写真

●士会だよりー本部●

「浸水被害住宅の技術対策マニュアル」
講習会のご案内

(公社)日本建築士会連合会では、風水害時における行政・建築士・ボランティアによる住宅等の応急処置、復旧支援が迅速に行われることを目的に、実際の被災地の貴重な体験データを集めた実用的なマニュアルとして、「浸水被害住宅の技術対策マニュアル」を策定いたしました。このマニュアルを活用して、被災住宅に対する適切なアドバイスや対応ができる建築士の育成を目的とした講習会を実施するものです。

■日 時：令和6年3月7日(木)

13：30～16：00

■会 場：徳島県建設センター 6階

■定 員：60名

■受講料：建築士会会員 2,000円(税込)
一般 3,000円(税込)

■講 師：佐藤 幸好氏

(公社) 徳島県建築士会相談役

(公社)日本建築士会連合会災害対策委員長・
防災まちづくり部長

■申込み：士会本部 (088-653-7570) まで

●行政だよりー徳島県●

新築建築物の「省エネ基準適合」に係る
サポート窓口について

令和7年4月施行(予定)の「改正建築物省エネ法」により、原則として「全ての新築建築物」に「省エネ基準への適合」が義務付けられます。

国土交通省ホームページへのリンク

(https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/jutakukentiku_house_tk4_000103.html)

また、令和6年1月以降に建築確認を受けた新築住宅について、「住宅ローン減税」を受けるためには、原則として「省エネ基準への適合」が要件となります。

国土交通省ホームページへのリンク

(https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk2_000017.html#chirashi)

これらの手続を行う建築士等を対象として、「申請図書作成」

建築士会本部行事

令和6年2月	令和6年3月
2日(金) 中国四国ブロック会長会議 (岡山県)	7日(木) 浸水被害住宅の技術対策マニュアル講習会 (建設センター)
10日(土)～11日(日) 中四国スキーツアー (兵庫県)	13日(木) 建築相談 (士会会議室)
14日(水) 建築相談 (士会会議室)	16日(日) 徳島支部研修旅行 (淡路島)
28日(水) 建築相談 (士会会議室)	28日(水) 建築相談 (士会会議室)

※ 木造住宅耐震相談は、平日の午後1時から午後4時まで実施しています。

※ 建築相談は第2・第4水曜日の午後1時・2時・3時(相談時間は1時間以内)に実施しています(要予約)。

などをサポートする窓口が、士会本部に設置されておりますので、ご活用ください。

<窓口概要>

と き 令和5年12月から令和6年2月までの

第2、第4水曜日

午後1時から午後4時までの間で、3件の相談に応じています。

(原則1時間ごと)

ところ 公益社団法人 徳島県建築士会 会議室

(当日は「面談」または「電話」で行います。)

予 約 相談は「予約制」です。あらかじめ士会本部までご連絡ください。

とくしまをささえる
会社のサポーター **金剛**

本 社	〒770-0845 徳島市新内町1丁目11番地1	TEL: 088-637-1177
徳島営業所	〒771-0134 徳島市川内町平石住吉189番1	TEL: 088-637-1177
阿南営業所	〒774-0017 阿南市見能林町大作半1-1	TEL: 0884-22-8185
西 営 業 所	〒777-0005 美馬市穴吹町穴吹字明連2の7	TEL: 0883-53-6310
三好出張所	〒778-0002 三好市池田町マチ250-1-1	TEL: 0883-72-7091

📖 **ご購入者限定** 本書の電子版が無料でご覧いただけます！(2025年3月31日まで)

建築申請 memo 2023

編集 建築申請実務研究会
B5判・総頁556頁 本体価格4,950円(本体4,500円) 送料570円

建築消防 advice 2023

編集 建築申請実務研究会
B5判・総頁734頁 本体価格5,500円(本体5,000円) 送料570円

新日本法規出版 高松営業所

0120-089-339 (通話料無料)

受付時間 9:00～16:30 (土・日・祝日を除く)

E-mail takamatsu-eigy@sn-hoki.co.jp

編集後記

- ・50年前同じ下宿にいたU君からフェイスブックに投稿があった。ずっと消息を探していたのだが、思いがけない連絡に感激。(ノーリツ号)
- ・中学時代の友人とランチ。感激。(ぺべい)
- ・今年は東北東やや東。感激。(ひとはたうさぎ)